

理
十
リ

此ノ如ク言ヘハ人或ハ疑ハシ絶待ヨリシテ相

待ニ推移シタルヲ四諦親十二因縁親乃至八正

道ニ波羅密等ノ修行ニ因テ之ヲ一轉ニ絶待ニ

推移シテ無餘涅槃ニ入ルモ前例ノ如ク再ヒ絶

待ヨリシテ相待ニ推移セサルヲ保セスト是併

教上ニ於ル和漢古今解説ニ苦ム所ニ大ノ難問題ナ

リ然リト云モ余ハ之ニ答ヘテ言ハシトス四諦

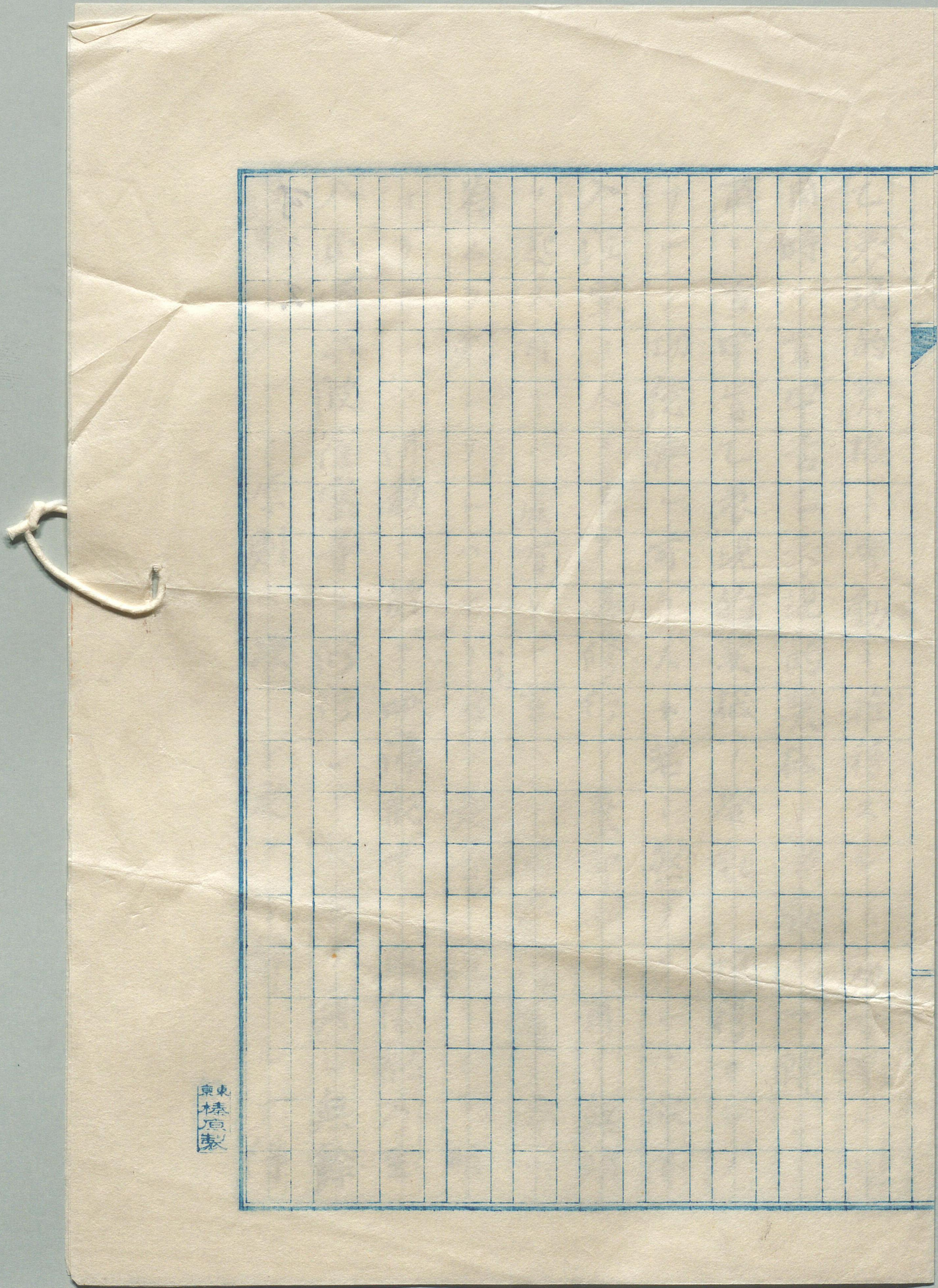
親十二因縁親乃至八正道ニ波羅密等ノ修行ハ

否甲肯乙表現的契機ノ発動ヲ一轉シテ肯甲否

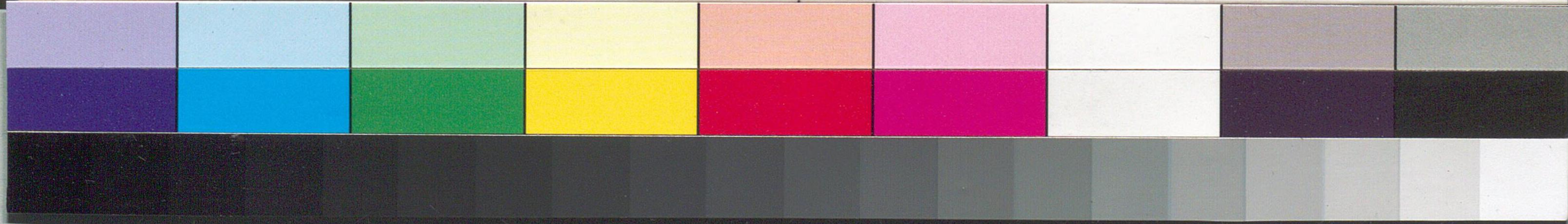
乙表現的契機、發動ニ推移スルノ効力有ルト
同時ニ肯甲否乙表現的契機ノ發動シ一轉シテ
百七否甲肯乙表現的契機ノ發動ニ推移セシメ
サルノ切徳無ル可ラスト若シ然ラサレハ成佛
入涅槃ノ人ニシテ其修行ヲ棄却シテ再ヒ無明
ヲ起ス可キノ處有リト言ヘル自家撞着ノ論ヲ
為スヲ免レサレハナリ、若シ是等ノ理ニシテ明
ナラサレハ佛教ニ於テ四諦觀、十二因縁觀乃至
八正道、六波羅密等ヲ修行シテ無明ヲ断シ無餘
涅槃ニ入ルノ原則ハ決シテ之ヲ了解スルヲ得

東林居士

可ラス



東
橋
原
家



国立国会図書館 渡辺国武関係文書(その2) 1104